

令和 7 年度

学校自己評価表（計画）

【夜間部】

学 校 運 営 計 画					
学 校 運 営 方 針		・個に応じた柔軟な学びを実現することで、社会参加に必要な力を培い、地域を支える人材を育成する。 ・全職員が、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの実現に向け、組織的に職務を遂行する。			
三つの方針(スクール・ポリシー)					
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)		①地域社会を支える人材として活躍するために必要な学力を育成します。 ②他者と支え合いながら、自立して生きていく力を育成します。 ③社会参加に必要となるコミュニケーション能力を育成します。			
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)		①単位制高等学校の特長を生かし、個々の生徒に合った多様な学びを実現します。 ②総合的な探究の時間やホームルーム活動等をとおして、地域と連携しながら、自分自身の将来の姿について考える機会を提供します。 ③学校行事や体験的活動等、他者と関わる場面を多く設定し、生徒が自らの成長を実感できる教育活動を展開します。			
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)		①将来の夢や目標をもち、その実現に向けて主体的に取り組むことができる生徒 ②自分のペースで、あせらず、あきらめずに学び続けることができる生徒 ③多様な個性をもつ他者を尊重し、周囲に配慮することができる、思いやりのある生徒			
昨年度の成果と課題		6 年度の重点目標		具体的目標	
1 成果 生徒一人ひとりに対して、担任を中心に各分掌・SC・SSW・相談員・特別支援 Co.・ジョブ Co.・日本語指導員等が連携して、組織的な取り組みを進めた。(R5→R6) ①中途退学者数 13 人→13 人 転出者数 12 人→12 人 ②進路 ・大学・短大 9.8%→12.0% ・専門学校 31.5%→32.5% ・就職 34.8%→45.8% ・アルバイト等 23.9%→9.6% ③生徒指導件数 13 件→9 件 いじめ認知件数 31 件→24 件 2 課題 ①中途退学率の減少に向け、引き続き保護者と連携し対応していく。 ②多様な生徒に対する丁寧かつ組織的な指導体制を確立する。 ③教育相談や通級による指導等、特別支援教育の指導体制を確立し、不登校・いじめ等の問題について学校全体で組織的に取り組む。 ④キャリア教育等の実践力を高め、卒業生全員の進路実現を目指す。 ⑤職員について、適切な勤務時間の管理を行う。		学 習 指 導	1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進するとともに、通級による指導を実施し、特別支援教育のより一層の充実を図る。	教室内での教授法等について検討会を継続的に実施する。 また、通級指導の検討を定期的実施する。	
			2 I C Tを活用した授業の実践	全ての職員が I C Tを活用した授業に取り組む。	
		生 徒 指 導	3 規範意識、公共心を涵養し、全ての生徒が安全、安心に学校生活を送れるようにする。	具体的な指導項目を、機会あるごとに生徒に示し、全職員でその指導に当たる。	
			4 教育相談を中心に据えた生徒指導体制を充実することにより、生徒の基本的生活習慣を確立する。	定期的に教育相談等を行い、いじめ等の問題行動の未然防止や早期解決を図る。	
			5 不登校の生徒及び保護者に対する支援を拡充し、中途退学者の減少を図る。	中途退学者、転出者、長期欠席者を前年度比10%削減する。	
		進 路 指 導	6 進路学習に早期から取り組むことにより、生徒の進路意識の高揚を図り、適切な職業観を醸成し、進路希望を実現する。	希望する就職及び進学の実現を図る。就職達成率及び進学達成率ともに100%を目指す。	
		働 き 方 改 革	7 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を踏まえた時間外勤務時間の削減を行う。	時間外勤務時間を 1 ヶ月40時間を越える教諭をゼロにする。	

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1 UDLの視点をとり入れた授業づくりと特別支援教育のより一層の充実	教室内での教授法等について検討会を継続的に実施する。 また、通級指導の検討を定期的に実施する。	教室移動、着席など基本的な学習指導について、HR、全校集会を利用し、繰り返し指導する。（教科担当、教務）			
		教室の学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化を図る。（特別支援、教科担当）			
		生徒による授業評価（1回）を実施し、授業の改善について研究する。（教務）			
		通級指導を行う。また、指導内容や受講生徒の様子についての情報共有を行う。（通級）			
		特別支援教育への理解と実践を図るために、年2回の研修を行う。（特別支援）			
2 ICTを活用した授業の実践	全職員がICTを活用した授業に取り組む。	ICT活用を進める校内研修を実施して、ICTを活用した授業の実践に取り組む。（ICT、教科担当）			
3 安全・安心な学校づくり	指導項目に対して全職員で指導に当たる。	基本的生活習慣のより一層の向上を図る。特に挨拶の励行に取り組む。（生徒指導、担任）			
		学校生活に関する調査（いじめ等）を（5回）実施する。（いじめ防止）			
		長期休業中の過ごし方について（3回）指導する。（生徒指導）			
		人権意識の向上をはかる学習をLHRで行う。（同和教育男女平等推進、担任）			
		人権学習研修会（1回）を実施し、人権教育に関する職員の理解を深める。（同和教育男女平等推進）			
4 教育相談を中心に据えた生徒指導体制の充実	家庭や外部機関と連携し、中途退学者の減少、休学者・長期欠席者の復学率・登校率を高める。	対人関係に不安を持つ生徒のためにスクール・カウンセラーの活用を促す。（教育相談）			
		教育相談月間（2回）を実施し、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組む。（教育相談、いじめ防止、担任）			
		いじめ・自殺防止教育の活動や授業を通じて意識の啓発を図る。（いじめ防止、担任）			
5 不登校の生徒及び保護者に対する支援の拡充	長期欠席者等の実態を把握し、具体的な支援の在り方について検討を行う。	長欠生徒、休学者並びにその保護者に対して情報提供を行い、本校相談室への来訪を勧める。（教育相談、担任）			
		休学者や長期欠席者への定期的な情報提供により、復学や登校への支援を図る。（教務、担任）			
6 生徒の進路意識の高揚を図り、進路希望を実現する。	希望する就職及び進学の実現を図る。（就職達成率及び進学達成率ともに100%を目指す）	進路講演会・企業見学会・上級学校見学会を実施し、進路意識の向上をはかる。（進路、担任）			
		より丁寧な面談を通じて、個に応じた進路指導を行う。（進路、担任）			
		「進路のてびき」を発行し、HR等さまざまな機会を活用する。（進路、担任）			
		社会で必要なマナー指導を全職員をあげて行う。（進路）			
7 時間外勤務時間の削減を行う。	全職員の「時間外勤務時間1ヶ月40時間以内」を実現する。	複数の職員、分掌で業務を分担、協働して、仕事能率の向上を図る。（全職員）			
		行事、会議の開催方法を見直し、仕事量の平均化を図る。（全教職員）			
成果			総合評価		